



10月

ほけんだより

平成27年10月1日

南日野保育園



季節が秋に変わり始めました。朝夕の寒暖差で体調を崩している子どもたちが多くいます。また夏の疲れが出ているのか、熱を出す子ども、咳が続いている子どもたちがいます。子どもたちそして、保護者の方々も体調には十分気をつけてください。

10月10日は 目の愛護デー



生まれたときは明暗を感じる程度の子どもの視力が、大人並みの1.0くらいになるのが、6歳ごろと言われます。子どもは視力に異常が生じて、自分で症状を訴えることは難しいこと。気になる様子が見られたら、眼科を受診しましょう。

こんなときは心配です

- 目を細めて見る ●片目で見ると
- 顔を傾けて見る ●まぶしがる
- いつも涙くんでいる
- まぶたが下がっている



健康診断のお知らせ

29日 9時～

日ごろ気づきにくい病気を早く発見したり、成長を知ったりすることは、子どもの健康を守るためにもとても大切です。医師に聞いておきたいことなどがあればお知らせください。また、当日はできるだけお休みがないようお願いいたします。



高熱に注意!

溶連菌感染症

突然高熱の出る、非常に感染力の強い病気です。下記の症状が見られたら、早めを受診しましょう。

- 症状
- 突然高熱が出て、のどがはれて痛みが出る
 - 全身に発しんが出ると
 - 舌にイチゴ状の赤いぶつぶつが出る
 - おう吐、頭痛が起ると

注意! 症状が落ち着いたからと薬をやめると、腎炎などになる危険が。医師の指示どおり最後まで飲みましょう。

注意! 抗生薬を飲んでから24～48時間は登園停止です。

溶連菌感染症は 治った後も検査を受けて

溶連菌感染症は、突然の高熱、のど真っ赤なはれ、かゆみのある発しんが全身に広がるなどの症状が出ます。抗生薬を飲めば治りますが、大切なのは、症状が治まった10日～2週間後に1回、さらに1か月後に1回、尿検査を受けること。「急性糸球体腎炎」などの合併症を起こしていないか確認するためです。忘れずに受診しましょう。



薄着の習慣は秋からスタート

肌寒くなってくると、つい子どもに厚着をさせたくなりますが、子どもは意外と寒さに強いもの。冬に向けて抵抗力をつけ、丈夫な皮膚を作っていくためにも、今から薄着を心がけていきましょう。

薄着で過ごすコツ

- 寒いときは薄手の上着で調節する
- 肌着を着て保温する
- おなかと背中が出ないようにする



大人より「少し遅く」「1枚少なく」!

大人が「長そでを着よう」と思ったとき、子どもは長そでにするのを少し遅らせる。大人が重ね着するとき、子どもは1枚少なく着せる。こうすると、自然と薄着が習慣づけられます。